

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ふくろうっこ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 3月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 3月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手話等の視覚的コミュニケーションを豊かにし、コミュニケーションの力を伸ばす	ろう者・難聴者スタッフと手話ができるきこえるスタッフのもと、手話の力を伸ばす。そして、視覚的なコミュニケーションで確実に意思疎通が図れるようにする。 さまざまな活動を通して手話で「分かる」という達成感を積み重ねていく。	SSTに関するイベント（お出かけ企画・ろう高齢者との交流・工場見学・買い物体験など）を積極的に実施する。企画の内容がマンネリ化にならないよう、その都度、子どもたちが興味あることを積極的に取り入れていく。
2	生きる力を豊かに育てる ソーシャルスキルの習得	きこえないアイデンティティ形成と社会性の向上を目指す。 第三の居場所だけでなく、ロールモデルとなるろう者・難聴者スタッフとのかかわりを通して多くの成功体験を導入、自己肯定感を高める。 友達関係を通して、集団を形成し、他者とのつながりを大切に、豊かに生きる力を育てる。	「やってよかった」「楽しい」と感じるなど、できる体験を実践する。集団での活動や友達とのかかわりを通して、聴く力/伝える力を身につける。 挨拶やルール、マナー、礼儀、感謝など社会生活で活躍するスキル、そして友人や上下、協力、対立など、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切にしたい行動を選択できるよう一緒に考えていく。
3	地域支援や地域連携の促進	地域とのかかわりを通して、聴覚障害を含めた障害者に対する理解を広める。	長田区自立支援協議会子ども部会定例会（月1回）への参加。新長田子ども食堂への参加・交流。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境整備について	部屋が狭く学習と遊びのスペースが明確に分けられていない。利用児人数によっては手狭に感じることがあり安全面について懸念している部分がある。	学習が終わった利用児を付近の公共機関（図書館や公園など）に連れて行き、お互いがスムーズに過ごせられるよう分けている。 部屋の広さには限りがあるので、机の配置を変えて遊びのスペースを確保している。
	緊急対応時のマニュアルや避難訓練の実施など、全保護者、全利用者に周知、説明することに努める。	利用児によって来所曜日が異なるため、全員が避難訓練を経験することが容易ではない。また保護者へ内容を伝えるにも足りない部分がある。	避難訓練を実施する土曜日に全利用児への参加を促す。また参加できなかった利用児に対して避難訓練の実施日や実施後の内容、様子等を丁寧に伝えていく。
3	保護者同士の交流の機会があまりない	働いておられる保護者も多く、保護者同士の交流のニーズが比較的薄いと思われる。	2024年まで毎年開催できていたが、コロナ感染症拡大により休止。今年度には開催できるよう努めたい。